

## 2段階 履修番号 (9) 例題とポイント

### <悪条件下での運転>

#### <練習問題>

- ①対向車のライトがまぶしいときは、そのライトをじっとみつめて目をならすとよい。  
(ヒント 下記1-①ワンポイント参照) 安知 P48
- ②霧で前方の視界が悪いときは、道路の中心線やガードレールや前車の尾灯をめやすにし、速度を落として運転する。  
(ヒント 下記3を参照) 安知 P57
- ③ぬかるみや砂利道では、低速ギアを使い、速度を一定に保ちながら走行する。  
(ヒント 下記4を参照) 安知 P58
- ④走行中パンクしたので、ハンドルを持つ手を強めた方がよい。  
(ヒント 下記5-③参照) 安知 P65
- ⑤走行中後輪が右にすべったときは、ハンドルを右にきって車の向きをたてなおす。  
(ヒント 下記5-⑤参照) 安知 P66

### 1. 夜間の運転

#### ① 前照灯の照射範囲

前照灯の光は、**上向きで100m 下向きで40m**前方の障害物を確認できる明るさ。

前照灯を下向きにして運転している場合に、

- 時速50キロメートルの停止距離は32mであり、ぎりぎり止まることができる。
- 時速60キロメートルの停止距離は44mであり、

#### ② 60キロメートルで走行中に、障害物を発見した場合は、障害物をさけられない結果になる。

- 夜間、道路を通行するときは、前照灯、車幅灯、尾灯などをつけなければなりません。  
(夜間とは、日没から日の出までどんなに明るくてもとうかをつける。)
- 昼間でも、トンネルの中や濃い霧の中などで50メートル(高速道路では200メートル)先が見えないような場所を通行するときも同じです。

重要



前照灯の操作(ライトの切り替え)

重要

交通量の多い市街地は常に前照灯は下向き、対向車のライトがまぶしいときは、視点をやや左に移して目がくらまないようにする。

見通しの悪い交差点やカーブで他の車や歩行者等に接近を知らせるため前照灯を上向きに切り替えるか点滅させる。(視界の確保、相手に速く接近をしらせるため)

#### ■ 夜間などに道路に駐停車するとき

非常点滅表示灯、駐車灯または尾灯をつけなければならない。

昼間でも、トンネルの中や濃い霧のなかなどで50m先が見えないような場所に駐停車するときも同じです。高速道路の場合は、停止表示器材と合わせて非常点滅表示灯などをつける。

### 2. 雨のときの運転

- 深い水たまりのある場所を通ると、ハンドルをとられたり、ブレーキがききにくくなるのでできるだけさけて通るようにしましょう。

重要

#### ■ ハイドロプレーニング現象

タイヤが水上スキーのように水の膜の上を滑走することで、ハンドル、ブレーキがきかなくなり、非常に危険です。(ブレーキを強く踏んだらダメ)

### 3. 霧のときの運転

重要

霧のときは、前照灯または霧灯を早めに点灯し、中央線やガードレール、前車の尾灯を目安に、十分な車間距離を確保しながら速度を落として走行する。

### 4. 道路状況の悪いときの運転

重要

- むかるみ、砂利道などで運転する場合は、低速ギヤを使い、速度を一定に保ちながら通行しましょう。
- 雪道などでの運転  
雪道や凍結した路面では、必ずタイヤチェーン、スタッドレスタイヤなどを使用しなければならない。
- わだちの走行……雪道では、できるだけわだちを走行するのが安全です

2 とか L のギヤを使って

右左折などでわだちを横切の場合は、滑るので**要注意!**

### 5. 非常時の処置



故障や燃料切れで道路に駐停車する場合は、昼間…停止表示器材を後方においたり、トランクを開けたりして駐車していることを表示する。 夜間…夜間運転 1を参照

#### ①エンジンの回転数が上がった後、故障等により下がらなくなったとき

- 最初にギヤをニュートラルにする。
- ブレーキをかけて速度を落とし、道路の左端に車を止める。

最後にエンジンを切る。  
(二輪車の場合は、点火スイッチを切る)

#### ②下り坂でブレーキが利かなくなったとき

- すばやくギヤチェンジをし、エンジンブレーキをきかせ、さらにハンドブレーキをひく。
- それでも減速しないときは、山側に車体の側面を接触させるか、道路わきの土砂などに突っ込んで止める。

ハンドルの持つ手の力を強めること

#### ③走行中、タイヤがパンクしたとき

- あわてずに、ハンドルをしっかり握り車体をまっすぐに保つ。
- アクセルをゆるめ、ブレーキペダルを断続的に踏んで速度を落とす。
- 道路の左端に寄って止める。

急ブレーキをかけたらダメ

#### ④対向車と正面衝突のおそれがあるとき

- 警音器を鳴らすとともに、最後まであきらめないでブレーキをかけ、速度を落としハンドルを切り、できるだけ左側によける。
- 道路外が安全な場合は、ためらわずに道路外に出て避ける。

#### ⑤後輪が横滑りを始めたとき

- 後輪が滑る方向に軽くハンドルを切り、車の向きを立て直す。  
左にハンドルを切って後輪が滑ったときは、右にハンドルを切る。

### 6. 大地震などのとき 教本P66～P68

#### ① 避難するとき

- 車で避難をしない **重要**

#### ② 運転中に大地震が発生したとき

- ハンドルをしっかり握り、やむを得ず道路上に置いて避難するときは、道路の左側に寄せて駐車し、エンジンを止め、エンジンキーはつけたままにし、四輪車の場合窓を閉め、ドアロックしないで、貴重品は携帯しましょう。

ポイント



大地震が発生したときに、エンジンキーを付けたままにし、四輪車のドアをロックしないのは、緊急自動車の妨害になったとき、移動ができるようにするためです。  
窓を閉めるのは、火災が発生したとき、火災が車内に入らないようにするためです。

非常時の処置は5つ全部、特にしっかり覚えてね!